

平成28年度「事業評価・提案会」評価シート

担当部署	福祉保健部	長寿介護課	担当名	高齢者支援室	事業No.	①-1
------	-------	-------	-----	--------	-------	-----

リーディング・プロジェクト		
プロジェクト名	プロジェクトI	生涯活躍のまち(CCRC)事業の推進
施策名	施策5	ライフステージに応じた健康づくり

都留市総合戦略			
戦略名 施策名	共通戦略	都留市版生涯活躍のまち(CCRC)事業の推進	
	戦略5	安全・安心・快適なまちの創生	
	施策1	ライフステージに応じた健康づくり	
交付金名	地方創生先行型交付金	平成27年度決算額	1,474,302 円

事業名 (交付金事業名)	<b>福祉拠点整備事業(居場所づくり)</b>
目的	高齢になっても元気で生きがいを持ち、住み慣れた地域でいきいきとした生活を送ることができるよう支援することによって、健康寿命の延伸を図る。
内容 <small>必要に応じて説明資料・写真を添付すること</small>	身近な歩いていける場所に、地域の誰もが気軽に立ち寄りおしゃべりをしたりする場である「居場所」を高齢者自らが主体となって開設・運営することを支援する。 支援内容 施設のバリアフリー改修費用、施設の借上料、備品の購入費用、講師の招聘費用・手配、運営費の補助等。
【Do】 事業の実績 取組状況	平成27年7月に市内7地区で、早稲田大学荒尾研究室の協力を得て「居場所づくり」の意義や手法等を紹介する説明会を開催するとともに、民生委員定例会・老人クラブ理事会等様々な場を通じて周知活動を行っている。 平成27年居場所開設箇所 6カ所 平成28年居場所開設箇所 4カ所 他平成26年より活動を支援している1ヶ所を含め計11カ所が活動中であり、1ヶ所が準備中、その他複数箇所より開設に向けた相談が寄せられている。

【Check】 課題	現在の居場所の多くが自治会館を使用して実施されており、自治会館を使用した居場所の場合は月1～2回程度の開催頻度になってしまう状況である。今後は、より身近な場所にある空き家や空き店舗を利用した常設型の居場所開設を推進したいが、使用可能な空き家などがなかなか見つからない状況である。								
	【Check】 平成27年度 自己評価	<table border="1"> <tr> <td>必要性</td> <td>A 必要性が高い</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>A 有効性が高い</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>A 効率性が高い</td> </tr> <tr> <td>KPI達成率</td> <td>B 概ね目標を達成している(達成率70%～100%未満)</td> </tr> </table> <p>早稲田大学と共同で実施した市内7地区での説明会の他、様々な機会を通じて居場所の有効性等を周知したことにより、居場所の開設を促進することができた。また、居場所に参加する方は、一様に楽しそうで、健康づくりにおける居場所の有効性が確認できた。</p>	必要性	A 必要性が高い	有効性	A 有効性が高い	効率性	A 効率性が高い	KPI達成率
必要性	A 必要性が高い								
有効性	A 有効性が高い								
効率性	A 効率性が高い								
KPI達成率	B 概ね目標を達成している(達成率70%～100%未満)								

事業費(円)	平成27年度決算額	(平成28年度 予算額)	(平成28年度 決算見込額)		
	1,474,302	3,320,000	3,320,000		
H27財源内訳	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	1,474,302				0
【Do】・【Plan】 平成27年度 事業費内訳 (具体的に)	<b>■都留市いーばしょづくり整備補助金(1,474,302円)</b> さなえ会 138,000円(施設借上料、備品購入費、運営費) 弁天町自治会 300,000円(施設修繕料 備品購入費) 新井さくらクラブ 288,870円(施設修繕費、備品購入費、運営費) 新町居場所会 443,260円(施設修繕費、備品購入費、運営費) 四日市場自治会 140,172円(備品購入費) 集寺(つどってらー) 164,000円(備品購入費、講師招聘費、運営費)				

◎外部評価人 評価・意見等	詳細の評価・意見・提案は、別紙「評価・提案内容」参照
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者と学生による世代間交流による運営</li> <li>住民ボランティア創設による人材育成</li> <li>社会貢献度が高く、男性が参加しやすいプログラムの開発</li> <li>居場所づくりと健康ポイント事業の連携</li> <li>空き家の活用</li> <li>大学生の活用</li> </ul>

■KPI(重要業績評価指標) 【Plan】⇒【Do】					
①KPI名称	元氣な都留市「いーばしょ」づくり等開催箇所				
H31年度目標値	年50ヶ所				
	現況値	H27	H28見込	H31(最終)	備考
実績	-	6	12	-	
達成率	-	12%	24%	-	
②KPI名称	元氣な都留市「いーばしょ」づくり等開催回数				
H31年度目標値	年300回				
	現況値	H27	H28見込	H31(最終)	備考
実績	-	82	188	-	
達成率	-	27%	63%	-	
③KPI名称	元氣な都留市「いーばしょ」づくり等参加延べ人数				
H31年度目標値	年5,000人				
	現況値	H27	H28見込	H31(最終)	備考
実績	-	1193	2,820	-	
達成率	-	24%	56%	-	

【Action】 改善策 今後の方向性	閉じこもりがちな虚弱な高齢者などが、より居場所に通い易い環境を整備するため、居場所の開設箇所の増加を図るとともに、継続して居場所が運営されるよう、都留文科大学の学生など若年層の居場所への参加を促進することにより、居場所の新たな担い手を育成する。 また、居場所が高齢者にとってより楽しい場となるよう、新たなメニューの開発や運営方法の改善等を支援する。
	(具体的内容) ・介護支援ボランティア制度の構築により、新たな担い手を育成する。 ・老人クラブや自治会等に対し、居場所の意義等について継続的に周知する。 ・現在の居場所の中から、モデル的な居場所を設定し、その活動を広報やCATVを通じて周知するとともに、新たな試みなどを実施して行く。 ・現在は、多くの居場所で健康運動指導士・理学療法士等による健康づくりのための体操等のメニューとして取り入れているが、これに都留文科大学の学生による英語教室や健康科学大学により健康相談等のメニューを加えることにより学生の参加を促進する。 ・各居場所が自らの活動内容や成果を披露することができるイベント等の開催、または各地域の様々なイベントに居場所への理解が深まるような展示や成果の披露の場を設けられるよう働きかけを行う。 ・男性向けのメニューなどを検討し、男性の参加を促す。 ・先進事例や活動内容について写真も入れた事例集などを作成し、居場所づくりの意見交換会や地域環境課主催の自治会連合会等の会議などで紹介や事業のPRを行っていく。

平成28年度「事業評価・提案会」評価シート

担当部署	福祉保健部	長寿介護課	担当名	高齢者支援室	事業No.	①-2
------	-------	-------	-----	--------	-------	-----

リーディング・プロジェクト		
プロジェクト名	プロジェクトI	生涯活躍のまち(CCRC)事業の推進
施策名	施策5	ライフステージに応じた健康づくり

都留市総合戦略		
戦略名	共通戦略	都留市版生涯活躍のまち(CCRC)事業の推進
施策名	戦略5	安全・安心・快適なまちの創生
	施策1	ライフステージに応じた健康づくり
交付金名		平成27年度決算額 円

事業名 (交付金事業名)	健康ポイント制度導入事業 (交付金事業以外から選定)	
目的	高齢になっても健康でいきいきとした生活を送ることができるよう、日頃から運動や食生活の改善等の健康づくりに取り組む65歳以上の高齢者を増加させることにより、健康寿命の延伸を図る。	
内容 <small>必要に応じて説明資料・写真を添付すること</small>	高齢者が抱える健康課題の解消等を図るため、各々の状態に応じた目標を設定し、その目標達成のためにどのようなメニューに取り組むかを、保健師等の指導により設定し、そのメニューをできたかどうかをポイント手帳に記入することによりポイントを付与する。また、健康診断や居場所等への参加を促進するためそれらへの参加についてもポイントを付与する。ポイントは、地元商店街で利用可能な「わくわくカード」に付与。	
【Do】 事業の実績 取組状況	平成27年度に実施した「高齢者生活状況調査」の結果説明会(市内7地域で5~6月に開催)で制度の周知・受付を実施するとともに、地域の居場所や老人クラブ活動の場に出向き受付を行うなどした結果、10月27日現在549名が事業に参加しており、多くの人が積極的に健康づくりに取り組んでいる。	

【Check】 課題	平成28年度は、介護予防事業の財源を活用し、65歳以上の高齢者のみを対象に事業を開始した。事業参加者には、概ね好評であるが対象者が高齢であるため、申請・目標設定等に当初の予想以上に時間が掛かり、より多くのイベント等に出向き事業の周知・受付を行いたい、人員的な問題もあり機会が限られている。 対象が高齢者であるため、周知方法を検討する必要がある。	
【Check】 平成28年度 自己評価	必要性	A 必要性が高い
	有効性	A 有効性が高い
	効率性	B 効率性が認められる
	KPI達成率	B 概ね目標を達成している(達成率70%~100%未満)
	健康づくり事業については、単年度で効果を検証するのは困難であるが、手帳をみると多くの高齢者が意欲的に健康づくりに取り組んでおり、健康づくりのきっかけづくりという役割は十分に果たしていると思われる。	

事業費(円)	平成27年度決算額	(平成28年度 予算額)	(平成28年度 決算見込額)		
	-	1,226,000円	570,000円		
H28財源内訳	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
	306,000	306,000		343,000	271,000
【Do】・【Plan】 平成28年度 事業費内訳 (具体的に)	健康ポイント手帳印刷製本費 378,000円 わくわくカードポイント付与機使用負担金4,000円×12月=48,000円 ポイント付与負担金 1.6円×500P×1,000人=800,000円				

◎外部評価人 評価・意見等	詳細の評価・意見・提案は、別紙「評価・提案内容」参照
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街の店舗による健康ポイント手帳の発行</li> <li>・取組内容、クチコミを紹介するWebコンテンツの提供</li> <li>・対象年齢の引き下げ(40歳以上)</li> <li>・居場所づくり事業との連携</li> <li>・パートナー制度の創設</li> <li>・健康ポイント制度と居場所づくり事業との一体化</li> <li>・目標値の追加</li> <li>・民間健康促進施設との連携</li> <li>・ポピュレーションアプローチ(市民全体への働きかけ)</li> <li>・ハイリスクアプローチ(要支援者・引きこもり高齢者等への働きかけ)</li> </ul>

■KPI(重要業績評価指標) 【Plan】⇒【Do】					
①KPI名称	健康ポイント年間延べ付与者数				
H31年度目標値	年4,200人				
	現況値	H27	H28見込	H31(最終)	備考
実績	-		700	-	H28年度は65歳以上の
達成率	-		16%	-	高齢者のみ対象
②KPI名称					
H31年度目標値					
	現況値	H27	H28見込	H31(最終)	備考
実績	-			-	
達成率	-			-	
③KPI名称					
H31年度目標値					
	現況値	H27	H28見込	H31(最終)	備考
実績	-			-	
達成率	-			-	

【Action】 改善策 今後の方向性	健康ポイント制度により多くの高齢者が継続して取り組むことができるよう、健康ポイント手帳を持つ方への、優遇制度や表彰制度を構築するとともに、多くの人の集まる場に積極的に出向き、健康ポイントの周知活動等を実施する。また、健康子育て課で構築する、若いうちから健康づくりに取り組む市民を増やすため、平成29年度より、65歳未満の方を対象とした健康ポイント制度を関係課と協議し開始する。 また、居場所づくり事業に取り組む団体では、多くの参加者が健康ポイント事業にも参加しており、その中で刺激し合ったり、教え合ったりといったことで健康づくりに対する取組が積極的に進められていることから、居場所に限らず多くの市民が集まる場に出向き、健康ポイント事業への市民の参加を促進する。
	(具体的内容) ・静岡県などで実施している、健康ポイント制度に取り組む方への、地元商店の割引制度の導入などについては商工会と協議する。 ・健康ポイント制度の積極的な周知活動を実施する。 ・居場所やサロン等、市民が集まる場に出向き、健康ポイント事業への参加を促進する。 ・健康ポイントの目標設定作業について、健康科学大学の保健師を目指す学生等が関われる体制を大学と協議し構築する。 ・WEBを活用した事業については、仕事を持つ市民には非常に有効であるため、今後検討する。 ・「居場所」や老人クラブ活動などの地域住民が集う場に訪問し、周知するとともに、その状況(写真)を「広報つる」やホームページに掲載するなどし、積極的な周知活動を実施する。 ・健康ポイントに積極的に取り組む市民を紹介する等、成功事例を示すことで市民の参加を促進する。 ・市主催の健康づくりに関するイベントへの参加ポイントを、通常のポイント加算イベントへの市民の参加を促すとともに、健康ポイント事業に取り組んでいないイベント参加者の健康ポイントへの参加を促進する。 ・閉じこもりがちな高齢者宅等への保健師、社会福祉士による訪問活動を通じて、健康ポイント制度や居場所への参加を促すとともに、高齢者の状態に応じ、必要な支援に繋げ重症化を予防する。